

## 決 定 要 旨

被 審 人（住所）宮城県  
（氏名） A

上記被審人に対する平成 21 年度（判）第 29 号金融商品取引法違反審判事件について、金融商品取引法第 185 条の 6 の規定により審判長審判官三島聖子、審判官奥久潤一、同渡辺健一から提出された決定案に基づき、金融商品取引法第 185 条の 7 第 1 項の規定により、下記のとおり決定する。

### 記

#### 1 主文

被審人に対し、次のとおり課徴金を国庫に納付することを命ずる。

- (1) 納付すべき課徴金の額 金 149 万円
- (2) 課徴金の納付期限 平成 22 年 2 月 1 日

#### 2 事実及び理由

課徴金に係る金融商品取引法第 178 条第 1 項各号に掲げる事実及び課徴金の計算の基礎は、審判手続開始決定書と同一であるからこれを引用する。法令の適用は別紙のとおりである。

被審人は、第 1 回審判の期日前に、課徴金に係る金融商品取引法 178 条第 1 項第 16 号に掲げる事実及び納付すべき課徴金の額を認める旨の答弁書を提出しており、上記事実が認められる。

平成 21 年 11 月 30 日

金融庁長官 三國谷勝範

(別紙)

○ 法令の適用

平成 20 年法律第 65 号による改正前の金融商品取引法第 175 条第 1 項第 1 号、第 166 条第 3 項、第 1 項第 5 号、第 4 号、第 2 項第 1 号ヨ、金融商品取引法施行令第 28 条第 8 号、金融商品取引法第 176 条第 2 項

(参考) 「審判手続開始決定書」の引用部分

○ 課徴金に係る金融商品取引法第 178 条第 1 項各号に掲げる事実

金融商品取引法第 178 条第 1 項第 16 号に該当

被審人は、東京経済株式会社の社員として勤務していたものであるが、被審人は、平成 20 年 11 月 26 日、その職務に関し、東京都千代田区平河町二丁目 1 番 1 号に本店を置き、プレストレストコンクリート建設工事の請負等を目的とし、その発行する株券が東京証券取引所市場第一部に上場されていた(平成 20 年 12 月 25 日上場廃止)オリエンタル白石株式会社とリース契約を締結していた B 株式会社の C 支店で上記リース契約に係る業務を行っていた D が同契約の履行に関し知り、同社の与信業務を行っていた E が、その職務上、同社の F を通じて D から伝達を受け、その後、東京経済株式会社の G が、その職務上、E から伝達を受けた、オリエンタル白石株式会社の業務執行を決定する機関が更生手続開始の申立てを行うことについての決定をした旨の事実を知り、法定の除外事由がないのに、同年 11 月 26 日、上記事実の公表がされるより前に、H 証券株式会社を介し、東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号所在の株式会社東京証券取引所において、自己の計算において、オリエンタル白石株式会社の株券合計 3 万株を売付価額 326 万 8800 円で売り付けたものである。

○ 課徴金の計算の基礎

(1) 平成 20 年法律第 65 号による改正前の金融商品取引法第 175 条第 1 項第 1 号の規定により、当該有価証券の売付けについて、当該有価証券の売付けをした価格にその数量を乗じて得た額から業務等に関する重要事実の公表がされた後における価格に当該有価証券の売付けの数量を乗じて得た額を控除した額。

$$\begin{aligned} & (106 \text{ 円} \times 300 \text{ 株} + 107 \text{ 円} \times 9,900 \text{ 株} + 108 \text{ 円} \times 5,600 \text{ 株} + 109 \text{ 円} \times 4,100 \text{ 株} \\ & + 110 \text{ 円} \times 5,100 \text{ 株} + 113 \text{ 円} \times 5,000 \text{ 株}) \\ & - (59 \text{ 円} \times 30,000 \text{ 株}) \\ & = 1,498,800 \text{ 円} \end{aligned}$$

(2) 金融商品取引法第 176 条第 2 項の規定により、上記(1)で計算した額の 1 万円未満の端数を切捨て。